

本件連絡先

泉南市市民生活環境部産業観光課

担当：岡・城野

TEL:072-483-8191

Mail: sinkou@city.sennan.lg.jp

令和2年1月24日

泉南市報道提供資料
報道機関 各位

泉南市秘書広報課長 古木 孝彦
(広報担当：南方)

市内文化財の日本遺産への認定申請について

泉南市では宮崎県宮崎市・奈良県橿原市のほか、9府県24自治体による「(仮称)神武東遷」日本遺産推進協議会準備会(事務局宮崎市)へ参画し、市内男里おのさとに所在する「男神社」および「男神社おのじんじゃ摂社せつしゃ浜の宮はまみや」が日本遺産として認定を受けることを目指しています。このたび文化庁への認定申請を行いましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

【申請タイトル】

日本最古の冒険物語『神武東遷』～The story of the first emperor JINMU～
じんむとうせん

【申請日】令和2年1月14日(提出締切1月24日)

※発表日は未定。例年は5月頃

【参画自治体】 宮崎県：宮崎市、高原町、都農町、日向市

大分県：大分市、佐伯市、宇佐市

福岡県：芦屋町、北九州市

広島県：府中町、呉市

岡山県：笠岡市、岡山市

大阪府：東大阪市、泉南市

和歌山県：和歌山市、那智勝浦町、新宮市

三重県：熊野市、大紀町

奈良県：東吉野村、宇陀市、桜井市、橿原市

【構成文化財数】 58件

男神社・摂社浜の宮のほか、宮崎神宮、皇宮神こうぐう社、橿原神宮かしはらなど、24団体から神武東

遷のストーリーにまつわるものを構成文化財としている。

【ストーリー概要】

「東へ行こう、旅立つ日がきた。」

遙か昔、「カムヤマトイワレビコ」は「東のよき地で大いなる国を治める」という志を成し遂げるため、日向（宮崎県）から大和（奈良県）へと向かい、後に神武天皇となったと伝わる。

この冒険物語は、日本創世の物語「神武東遷」として今なお語り継がれ、九州から瀬戸内、そして近畿を結ぶ各地にその足跡が残っている。それは、自然、風習、信仰、祭礼といった様々な形で現代に伝えられた壮大な物語のパズルのピースである。

このピースを組み合わせ、冒険の旅路を辿れば、イワレビコが見聞きしたであろう豊かな自然景観や、人々が伝えてきた文化や思いを感じ、体験することができるだろう。

【男神社・摂社浜の宮について】

泉南市男里に所在する。平安時代中期（延長5（927）年）に編纂された『延喜式神名帳』に「男神社二座」として記される泉南市内では唯一の式内社である。主祭神としてイツセノミコトと神武天皇が祀られる。

摂社浜の宮は、男神社の北方約1.3kmに位置し、その境内は東西約250m、南北約60mの自然の砂丘となっている。江戸時代には「天神山」、現在は「天神の森」と呼ばれ、周辺の市街化が進むなか、今も自然地形の高まりが良く残される。かつては砂丘近辺まで海が迫っていたものと考えられ、オノミナト伝説ともよく符合する。浜の宮は「元の宮」とも呼ばれ、平安時代に現在の地に移転したといわれる。

創建の由来は、神武東遷の途上、河内国孔舎衛坂で大和の武族ナガスネヒコと戦った際、重傷を負った神武天皇の兄・イツセノミコトが海路、茅渟の山城水門にたどり着いたところ、傷を介抱した村人がイツセノミコトから賜った「海辺の石」を「天神山」に祀ったことが始まりとされる。イツセノミコトが無念の雄叫びをあげたことから、この地を男（雄）水門と呼ぶようになり、「オ」という地名が残されたと考えられている。

【主な指定文化財など】

（大阪府指定有形文化財）

- ・男神社本殿 五間社流造 江戸時代前期（17世紀中頃）建築

- ^{まっしやわかみや}末社若宮神社本殿 ^{いっけんしや}一間社流造 江戸時代中期（17世紀末～18世紀前期）建築
（国登録有形文化財）
- ^{はいでん}拝殿および^{へいでん}幣殿 昭和16年（1941）建築
- 旧^{はいでん}拝殿および^{へいでん}幣殿 明治15年（1882）建築、明治36年（1903）改修、昭和15年（1940）頃移築
- ^{すきへい}透塀 明治15年（1882）建築、昭和前期改修
（大阪みどりの百選）
- 男神社の^{しゃそう}社叢

【日本遺産について】（文化庁サイトより抜粋）

「日本遺産（Japan Heritage）」は地域の歴史的な魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定するものです。

ストーリーを語る上で欠かせない魅力溢れる有形や無形の様々な文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用し、国内だけでなく海外へも戦略的に発信していくことにより、地域の活性化を図ることを目的としています。

日本遺産は、既存の文化財の価値付けや保全のための新たな規制を図ることを目的としたものではなく、地域に点在する遺産を「面」として活用し、発信することで、地域活性化を図ることを目的としている点に違いがあります。

「日本遺産」に認定されると、認定された当該地域の認知度が高まるとともに、今後、日本遺産を通じた様々な取組を行うことにより、地域住民のアイデンティティの再確認や地域のブランド化等にも貢献し、ひいては地方創生に大いに資するものとなると考えています。



男神社 拝殿



男神社 撰社浜の宮